



高野和明さん 山本希実子さん 福嶋大介さん  
(三角町漁業協同組合)

# 熊本育ち 三角牡蠣

プランクトンが豊富で自然の厳しさもあわせ持つ三角の海。この自然豊かな海で始まった牡蠣の養殖が最盛期を迎えています。

宇城市の新しい特産物として注目を集める三角牡蠣。一度味わってみませんか。

## 生産量・出荷量

3年前から販売・出荷を始め、年々増加しています。



年次	生産量 (ト)	出荷量 (個)
H29年	2ト	0個
H30年	2.5ト	300個
H31年	15ト	2,000個

※ H31年は見込み

**本格的なブランド化へ**  
三角町漁業協同組合が、宇城市の新たな特産物を作ろうと取り組んでいる牡蠣の試験養殖が8年目を迎えました。同組合の職員が主体となり、地元の漁業者と育てているのは、マガキとシカメガキ。3年前から販売や出荷も行っています。

**マガキ**は「三角牡蠣」と名付けられ、宇城の味覚としてブランド化を目指しています。シカメガキは熊本県を代表するカキブランドとしての定着が期待されている「クマモト・オイスター」。知名度を上げるため、東京都のオイスターバーなどへ出荷するなど、本格的なブランド化に取り組んでいます。

同組合の福嶋大介さん(47)は「安定した供給を続け、雇用の創出や地域活性化につなげていきたい」と意気込んでいます。

**クマモト・オイスター(シカメガキ)**  
熊本県が「熊本ブランド」として知名度アップに取り組む「クマモト・オイスター」。

これは、小ぶりなシカメガキという種類で、不知火海では昔から食べられている「肥後牡蠣」のことを言います。

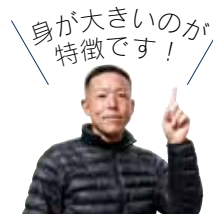
現在は、県内16カ所で養殖試験が行われており、同組合では、3月から5月にかけて、2000個ほどを東京へ出荷する予定です。



生で濃い味を楽しめます!

**三角牡蠣(マガキ)**  
今が旬の三角牡蠣は、淡水が多い海域で育つことで、塩辛さや磯の臭みがなくマイルドな味わいが特徴です。貝柱が大きく、甘みをたっぷり感じるができます。

この味わいは、干満の激しい不知火海が育んだもの。11月にカキ種に干出をかけてストレスを与え、3月になるとロープに挟みこんで筏につるします。厳しい環境で育てられた牡蠣は成長も味も良くなります。



身が大きいのが特徴です!

販売は「三角牡蠣」のみ。期間限定です!

3月31日@まで  
価格1,500円/1キ(8~12個程度)  
※ 加熱用です



購入者限定!  
牡蠣ナイフ  
プレゼント券  
2019.3.31@まで有効

## 三角町漁業協同組合

所 三角町三角浦1160番地153  
 ☎ 52-3037  
 営 10:00~17:00(月~土)  
 12:00~17:00(日・祝日)

販売はこちらで!  
今年の三角牡蠣は大きいよ!



道子さん アイ子さん 次代さん

## ボランティア団体が鏡餅を高齢者へ配布 新しい年の幸福を

12/25 年末恒例の餅つきが小川町の江頭コミュニティセンターで行われ、ボランティア団体のふれあい会や肥後小川ライオンズクラブ、民生委員、地元住民、土地改良区の約30人が参加しました。これは、約30年間続いているボランティア活動で、正月用の鏡餅を高齢者世帯へ配布するというもの。この餅つきに向けて育てたもち米120kgを蒸しあげてつき、餅を作りました。出来上がった鏡餅は、手紙と共に280世帯の高齢者に手渡されました。ふれあい会の吉田良一会長は「これからも活動を続けていきたい」と話しました。



一つずつ心を込めて餅を丸めました

## 美術館企画展「Exile Dream of Hope 国吉康雄と野田英夫」オープニングトーク 会話しながら絵を見よう



才士准教授の説明を聞きながら作品を鑑賞する参加者

1/5 2月3日まで不知火美術館で開かれている20世紀初頭に米国で活躍した2人の画家、国吉康雄と野田英夫の企画展に合わせて、同館の浦田恭代学芸員と本展の共同企画者である岡山大学の才士真司准教授によるオープニングトークが行われました。国吉と野田の作品が描かれた時代背景や作風の変遷、絵画技法や使用されている画材などについての解説が行われ、米国の市民権を得られなかった国吉と生まれながらに市民権を得た野田、その違いが作品の表現方法にも表れていることなどについても触れられました。

## 小川町出来町区のえびす堂と地藏堂が再建 球磨工高生の技術が復興のきっかけに

1/12 熊本地震で倒壊した小川町出来町区の「祠」が再建され、引き渡し式が行われました。建築したのは、球磨工高伝統建築コース(人吉市)の3年生12人。同区の依頼を受け、約10カ月間築造に取り組んできました。祠は高さ約2mで、江戸末期から地域に親しまれてきたといわれる、元の建物の面影を残すように配慮。この日は、区民が見守る中、基礎部分に設置されました。宮大工を目指しているという井手樹さんは「喜んでもらえたら」と笑顔を見せ、囑託員の辛川博之さん(72)は「地区で大切に守っていききたい」と話しました。



「よいしょ」。生徒と教師が力を合わせて祠を設置